

風力発電を止めてください。

由良守生です。今、平成 29 年 7/4 日、火曜日です。

私が風力発電の被害を訴えてから、もうすぐ 6 年の長い年月が過ぎることになります。

平成 23 年 12 月から、被害者から依頼を受けて、周囲の事情など何も分からない中で、やみくもに、低周波で地域の人々が苦しんでいる、ただ事ではない、被害者き命がけで、真剣に訴えている、と伝えてきました。

まさに、彼ら、彼女たちは、命がけで私に話をしていたのです。

すぐに、その被害者たちは亡くなっていきました。次々と死亡しました。

もっと彼らの話を聞いておけばよかったのか。

しかし、強烈な低周波で頭をやられていますから、みなヒステリックになっていて、固い殻に固まっていて、私では役不足でした。むしろ私は敵視されて、嫌われていました。そのように仕組まれていました。

そのことは「谷口語録」などとして、私が聞いてきたことを記録してまとめています。

[こんなにもあります。45項目です。]

谷口さんは私の選挙参謀でした。去年、10月に亡くなりました。

被害者たちの話ですけれど、田舎の百姓のオッサンやオバチャンにはない言葉や、言い回し、専門的な表現がたくさんありました。受け売りの言葉です。

風力事業の地域対策でした。熱心な説得や洗脳ですね。

被害者たちは、風力事業の標的にされて、たくさんの人々から「ごまかしの言葉」で騙されていきました。

「低周波は、エアコンや冷蔵庫にもあるわな」とか、

「私たちはアセスメントをきちんとしてくださいと訴えている」とか、問題すり替えのオンパレードでした。

(エアコンや冷蔵庫の低周波は、風力発電のものとは違います。エネルギーの大きさ、有害な低周波成分が突出していて、卓越しています。また、アセスメントは、工事をするための手続きです。目的は、スムーズに工事を行うことにあるのですから、被害とは関係ありません。意味も分からずに言っていたのです。)

「ワシらは勉強しているから何でも知っているんや」というのです。

「ごまかしの言葉」、詐欺言葉は、本当にどっさり聞かされましたよ。

町長や役場職員、町会議員たちは、頭から被害を否定するし、県会議員まで来て、被害者を営業妨害だ、と脅すのですから。

私も聞いていて、信じられない事態でした。

さらに、野鳥の会や環境運動家といった、普通に考えると、自然環境を守りましょう、といった、心優しい人々だと思っていた人が、風力発電は必要なのだ、という信念で、「執拗に」被害者に接触して、風力発電の話をしたり、地球温暖化、CO2削減の話聞かせていきました。もちろん低周波被害は否定していました。更年期障害だということでした。

たぶん、何かの報酬があったんでしょう。それぞれに利権があったんでしょうね。

また、地域の区長さんや、区の役員さんが役場の意向を伝えて、弾圧にかかりました。私も同じように何度も激しくやられました。

私はこれでも旧家のボンでしてね。お金はないけれども、町一番の歴史のある家庭に生まれて育てられました。それを口汚く罵って、これでもかとアホにして喜んでいるのですから、まったくひどい有様でした。

今でも鮮明に、腹立たしく覚えています。

各地区の区長は、町長とともに、協定書に署名、捺印しています。

地元の同意がある、という建前でした。「低周波、電磁波等により、地区住民に苦痛を与えないこと」という協定書です。

環境運動家たちは、「あれは形だけのものだから、何を言っても駄目だよ」と、うれしそうに主張しています。彼らはそのような低レベルなのでした。

末端の権力の手先となって、まるで自分が権力者になったかのように、高圧的に、えらぶって、「ワシらは、町長の言うことが正しいと思っている。オマエは間違っている」と宣言していたのでした。

なんのことはない。日本気象協会が事後測定して、「被害はない」という報告書に、その文句を町長は繰り返し、「だから被害はない」という仕掛け、トリックでした。

本当にバカバカしい詐欺でした。

被害者が、強烈な低周波で苦しんでいるのに、泣きながら訴えているのに、「被害はない」と言い続けているのです。

私は、まったく地域から迫害されていました。

「信頼のおけない人」、「信じられない人」、「嫌われている人」といった評価で固まっていました。この「谷口語録」にも、たくさんの

証言があります。たぶん、今もそうです。

地域の、あちこちで、「出て行け」と叫ばれたものでした。

普通に考えると、田舎の人は、そういう過激な言葉は使いません。

特に私のような、昔から事業をしてきて、村の世話役などをしてきた家柄の者に対しては。

由良町役場や、和歌山県の、行政の権力ですね、それが地域を操作しているんだろうと思いました。

もちろん議会などと言っても、ただのお飾りで行政と一体となっていました。「異議なし」というだけのものでした。

20 数回も、私のために懲罰委員会、懲罰議会を繰り返して、弾圧を具体的に公開してきたのです。「風力発電の被害」と私が発言すると、他の 9 人の議員、全員が一斉に挙手して、私の除名処分が議決されたのです。手を叩きながら、ジャンプして喜ぶ議員もいました。

そして、「風力発電に被害はない。テレビや冷蔵庫の低周波と、どう区別するのか。オマエだけや」と、風力発電のイデオロギーを強制するのです。

私の本にも書いておりますけれど、ホームページにも、順次書いてきたことですが、すべて事実です。こんなバカバカしいドラマ

を、議会に出席している役場幹部職員 30 名とともに、延々と繰り返したのです。

このような弾圧と見せかけで、地域の人々は皆、簡単に騙されてしまいました。すべて一方的、一面的な宣伝文句でした。地域の人も、役場職員も、舞い上がってしまったのです。不思議な、魔法の世界を見たと思いました。

被害と言ってはいけないのでした。低周波という言葉はタブーになっていました。

これほど地域社会が脆いものであったとは、私も驚いたものでした。(私は、社会というものは、もう少しまともで健全なものだと思っていました。理想かもしれませんが、正義のある固いものだと思っていました。)

私が書いたものや、汐見先生の書いたものを、地域の人に読んでもらおうとして差し出すと、その瞬間、皆、血相を変えて逃げていくのでした。

「ワアーッ」と言って、「それはいらん」と言って、それはすごいですよ。村八分、というんですか、これに関わったら、えらいことになるよ、人々は真剣に恐れているのです。

由良町の人々は、簡単に操作される状態になっていた、ということです。

たしかに最初の頃、平成 24 年の 2/25 日の日本気象協会の事後測定説明会では、まだ、風力発電の被害に対して、大声で抗議する人々がたくさんいました。

しかし、この時、私が依頼を受けて、初めて 12 月議会の一般質問で、風力発電被害の調査を求めてから、3 ヶ月もしないうちに、手のひらを返すように、コロッと事態は変わっていました。

御坊保険所の吉田課員が用意した大量のアンケート用紙は、廃棄されていました。

風力発電被害のアンケートは、してはならないと、被害者たちは言うのでした。「私たちは、こういうやり方はしない」と言うのです。私は驚きました。私も門前地区で配ればと思って、数枚もらっていました。実際にアンケートに答えて、谷口さんに一枚、御坊保健所に一枚、提出していました。

自称、被害者の谷口さんが言うことには、共産党幹部の小田さんにすべて渡した、ということです。そして、大量のアンケート用紙は、役場に持って行ったらしいのです。もちろん、そのまま廃棄された

でしょう。私が記入したのものも、当然、そのまま行方不明です。記録もないでしょう。

(アンケート用紙なら、コピーすればいくらでも、また用意できますけどね。彼らは拒否しました。)

ちなみに、私は平成 24 年 6 月に、「風力発電を止めてください」という署名運動をしました。その時の支持者の名前と印鑑を押した署名簿は、今も役場にあるはずです。

全く無視されています。

この時、環境運動家たちは、何度も私に圧力を加えました。何度も電話してきて、「署名運動は止めろ」、と言うのです。口汚い言葉で叫ばれました。それが原因で被害者が弾圧される。反対運動ができなくなる。というのです。(この時から、私は運動家の目的を疑うようになりました。)

この時、同時に、由良町の南側の山々に風力発電を次々に建設する計画があって、事業説明会も行われました。[9月でした]

私は、この計画にも反対する署名運動を一人でやりました。

由良町の南隣の日高町では、住民投票で否決して、建設は中止となりましたが、実際は今も、和歌山県の資料では、休止中となってい



ます。

なんと、東西に、東から西に、4km ほどの細長い、谷あいの由良町は、【由良町は、細長いんですよ】北側と南側の山々に、巨大な風力発電を、次々と建設するつもりだったのです。

つまり、細長い由良町の集落は、風力発電に取り囲まれる予定でした。

実際、1.000kw、16 基の風車が、2008 年 11 月に稼働した時、ふもとの住民に、騒音と低周波音被害があつて、数軒の家に、二重サッシを設置するなどの補償が行われました。たぶん、損害賠償もあつたでしょう。

風車との距離が 500m ほどしかなく、風のある日は、それはすごい騒音です。

よくもまあ、この人らは我慢できるな、というレベルです。

小さな谷に 3 つほど風車が近接しているのですから、増幅効果があると思います。私のホームページに写真がありますから、是非、見てください。なんで、こんなことをするのか理解ができないものです。この時には、全国で被害があることが分っていたはずでした。

それでも 2011 年 9 月に、2.000kw、5 基を中地区に建設して、さら

に低周波被害を拡大させました。

この時、1.000kw の風車では、被害感覚はあったものの、それほど気にならなかった被害者たちも、一斉に、何が起こったのか、分かったのです。

ワアーッ、と風車病という、低周波症候群、耳の奥、内耳の損傷ですね、強烈な低周波の空気振動に襲われました。

たくさんの被害者が、同じ症状を訴えました。

畑地区には、被害者は 40 人位、(実際は 50 人以上は)いたはずですが。

というのも、2/25 日の事後測定説明会には、30 人余りの人が来ていましたが、被害を受けている人ばかりでした。その人たちが抗議している話の中で、「近所の N さんが急にしんどくなった」と言っているとか、「今日の話聞いてきてほしいと頼まれて来た」とか、「小学校前の M さんの家では、うるさくて寝られんと言っている」とか、説明会に来られなかった被害者がたくさんいたからです。

畑地区は 400 人ほどの人口です。約 10%の被害があった、ということとです。

(後日、東大の学生が卒業論文のために、約 300 人の人にアンケートして、19%の人に被害がある、としています)

その内でも、とても生活ができない、家に居られない、という被害者たちがいました。10人ほどが苦しみながら亡くなっていますから、2～3%の割合で、とても耐えられない人がいた、ということです。

(ある被害者は、夜、家に居られないので、表に停めてある軽トラで休んでいました。寝るのではなく、じっと時間の過ぎるのを待っていた。朝が来るまで、冬の日々を、軽トラで時間を過ごして、そして死んでいきました。)

2/25日の説明会には、日本気象協会、日本風力の業者、親会社の大阪ガス、由良町役場の幹部職員2名が来て、正面に座っていました。私は参事から、「オマエ、訴えろ」と大声で怒鳴られたものでした。だから由良町役場は、畑地区で、風力発電の低周波被害で、ものすごいことになっていることは分かっていたのです。

それでも、さらに南側の山々に風力発電の建設を進めようとしていたのです。

私は、平成29年6月議会で、23回、連続して、風力発電により被害者が出ていて、苦しんでいる。すぐに風車を止めてください、と訴えてきました。

それでも議員の中には、私の一般質問と並行して、「由良町は風況が

良いので、早急に風力発電を建設すべきである」と議会で訴える議員がいたのです。地域活性化になるというのです。

恐るべきことではないでしょうか。

風力発電は高さが 100m もあって、風車の直径は 80m もある巨大な施設です。発生するエネルギーの大きさが、家庭にある電化製品とは桁違いに違うのです。

例えば、家庭で使う扇風機と比べてみてください。せいぜい直径が 30cm のものと、80m では、どれほどの差があることか。重さ、重量のことでも考えてみてください。それが回転するのです。先端の速度は、時速 300km/h 以上です。新幹線の速度と同じです。

音源が大きいと、「音の場、field」という現象があって、小さい音源とは比べ物にならない被害があるのです。

(30cm の扇風機だと、10m も離れると何も感じないでしょう。でも山の上に 100m もの高さの大きな風車が回っていれば、10m 離れようが、20m 離れようが、いや、1km 離れても、低周波音は減衰しないのです。)

風力業者のパンフレットでは、それがまるで同じものであるかのように描いています。騙しのテクニックです。

もちろん風力発電は、有害な低周波が突出して、卓越しています。

さて、由良町長や役場職員、町会議員たちが、なぜ、風力発電の被害があって、地域の人々が苦しんでいることを知りながら、「知らない」、「聞いた事もない」と言って、風力発電の建設に熱心なのでしょうか。

こんな小さな町ですから、(人口は6千人ほどです)、誰が被害者かは、手に取るように分かるわけです。

(私も町会議員ですから、選挙があるので、どこに、誰が住んでいるのか知っていて、当たり前に分かるわけです。選挙は大事ですからね。)

低周波の被害で苦しみながら死んでいった人のことも、十分に知っているのです。

それでも、谷口さんの場合ですと、「アイちゃんはガンで死んだんや」と議員たちはそろって合唱するのです。

忘れもしません。谷口さんが亡くなって、数日後に、議会事務局に行った時のことです。5人の議員と事務員がいました。

「アイちゃんは何で死んだんよ？」と彼らは私に聞くのです。

私は、「風力発電の低周波で苦しみながら死んだんよ」と答えました。

そしたら全員笑いながら、「そんなことあるか。アイちゃんはガンで死んだんや」とげらげら笑いながら、私に叫ぶのです。私は耐えられずに、別の部屋に移りました。

そこでも、議員たちは私を見下すようにして、侮蔑しています。嫌悪感というのか、憎しみに満ちていました。

「哀れなやつよ」というわけです。

初めから気が付いていましたが、議会事務局職員は、それらの議員の点数を付けていました。前の事務局長もそうでしたが、かなりのワル(悪)であることは明らかでした。

私は、他の被害者の死についても、何度も抗議してきました。泣きながら私に掴みかかってきた人もいたのです。

畑中町長は、議会議場で、「谷口さんからは何も聞いていない」と発言しました。

ウソつけ、って。

谷口さんと町長は、同じ年で幼馴染です。ついこの間まで、友達付き合いを楽しんでいました。町長選挙の時も仲良く、私は散々自慢話を聞かされました。

その谷口さんが、風力発電の被害を、一番の自慢の種、その町長に

言わないはずはないやろ。

私が谷口さんから聞いた話では、「町長は、手を、こういう風にブルブルふるわせて、言葉にならなかった。あんなものに、こんなに、何を言ってもアカンと思った」ということでした。

谷口さんは、町長に、何度も被害を伝えていたのです。

それを町長は、平然と、議会という公の場で、裏切って見せたのです。

自分が昔からよく知っている人が、風力発電の被害にあって苦しんでいる。そして死んでしまった。その事実さえ否定して、何も感じないのです。

人として共感する、というか、人生で大事なものは、しょせん、身近な人との関わりでしかないのに、その人たちが苦しみながら死んでいる事実を見ながら、笑い物にして否定している。

なぜ、こういうことができるのか。

役場職員や、議員という立場は、少なくとも、町民の安全、健康に関心を持たなければならないのではないか。

こんな小さな町で、分りきった被害を堂々と否定して、何が公務員なものか。

被害者の家族も、何も言わない。谷口さんが亡くなった時、私はその理由を見ました。

被害を否定する「考える会」の人たち5、6人が来て、死者にまで圧力を加えていたのです。

私はその時、彼らの嫌悪に染まった顔を、憎しみを、これでもかと思わせつけられました。毒気をぶつけられました。

その家では「葬儀には誰も来てくれるな」と言っただらしいという噂を聞きました。

地域ぐるみで、被害者を弾圧して、迫害して、風力発電の被害を隠ぺいしていたのです。

何がこうまでして、風力発電の低周波被害、健康被害を隠さなければならぬのでしょうか。被害を否定しなければならぬのでしょうか。

「被害を証明してみろ」と彼らはすぐに主張します。

「裁判しろ」と、繰り返し発言しています。「裁判したらええやないか」、と。

彼らには、人が苦しんでいることに同情して、思いやる心がないのです。



九州の水俣病では、長年、調査をしませんでした。今も、国による被害調査は行われていません。最初から原因は分かっていたのに、行政により、地域社会により、被害者たちは弾圧されて迫害されてきたのです。今もたくさんの被害者が裁判をしています。

水俣宣言とかいうイベントをしましたが、結局、何もませんでした。

「償ってもらわなければならない」という被害者たちの声も、被害者が死んでいく中で、かき消されています。

公害とは、そういうものなのです。

今の時代に、こんな小さな 6 千人の町で、堂々と低周波被害に苦しむ人たちを弾圧して、面白がっている町長や議員、職員たち、そして、地域社会があります。

それを許せない私は、一番の矢面に立って、世間の非難を受けてきました。

たぶん、全国で一人か二人の、ごく少数の変人です。

嫌われて結構なんです。

私は、たまたま風力発電の低周波被害にあって苦しんでいる被害者を弾圧して、自分が被害がないことに優越感を持って喜んでいる人

が許せません。その被害者が、苦しみながら泣きながら死んでいるのに、何が面白いものか。

被害者をアホにして、喜んでいる人々こそ、自分の異常さに気付くべきだと思うのです。私の言っていることに間違いがありますか。

もし、「そんな変な人は放っといたらええんや」「関係ないやろ」と言って無視するのなら、地域社会は、とうに転落して消えていきます。

雲を掴むような地域の絆ですか、人情といったものは、結局、幻だったのですが、人と人とが、共感する、道徳がある、ということが、人間社会の基本であると、バカな私は今でも信じています。

何とか由良町の風力発電を止めるために協力してください。

たくさんの方が、そのために死にました。

今も、たくさんの方が苦しんでいます。

自然エネルギーだの、地球温暖化だの、オカルトに騙されないでください。風力ファシズムです。言葉のトリックです。

冷酷、非道な由良町役場、議会の仕業を見てください。

骨のある人、是非、ご協力ください。お願いします。🇺🇸